令和８年度　第２回　野洲市地域公共交通会議　議事要旨

日　　時	令和８年７月 30 日（木）10：00～11：05
場　　所	野洲市役所本館３階　第１委員会室

○出席委員：井上会長、三木氏（森安副会長代理)、浅野委員、小林委員、清水稔委員、
山本真嗣委員、近藤委員、田中委員、舟引委員、塚田委員、中村委員、野村委員、
松尾委員、粂委員、岡本氏（中島委員代理)、喜多畑委員、清水宏孝委員、
山本一起委員、井狩昭彦委員、山本善亮委員、北田委員、山田委員
○欠席委員：坂口委員、井狩勝委員
○事 務 局：櫻本市長
都市建設部　今在家次長
都市政策課　吉川課長、原田係長、中川主査、森岡主事
高齢福祉課　四谷課長
地域医療政策課　瓜谷課長補佐
○傍　　聴：２人

○会議結果
議題
（１）野洲市コミュニティバス路線再編について
→承認

（２）野洲市路線バス通学定期券（高齢者用定期券小判手形）購入補助金の実施について（予定）
→報告

（３）「ゴイッショやす」買い物付き添い支援の現状報告について
→報告

１．開会

２．挨拶

市　長：本日は、ご多忙のなかご出席いただき感謝する。平素より、本市の公共交通の維持・発展にご尽力いただき、厚く御礼申し上げる。
さて、本市では、令和９年３月に予定している市立野洲地域医療センターの開院に伴う民間路線バス「永原循環線」のダイヤ改正に合わせて、コミュニティバス「おのりやす」の再編を進めている。永原循環線については、近江鉄道株式会社様のご協力をいただいた結果、平日・休日含め大幅な増便をいただく予定であり、この場をお借りして厚く御礼申し上げる。今回の会議では、令和７年度第３回の野洲市地域公共交通会議で再編案を承認いただいた後、市民懇談会の開催や学区への説明等を重ね、路線の確定について本日ご提案させていただく運びとなった。ついては、本日の会議ではコミバス路線の再編についてご審議いただきたい。
また、持続可能な公共交通を実現するためには、民間路線バスは要となるものである。そのため、運転免許を所持していない子どもや高齢者等、これまで公共交通の利用が少なかった方々に対し、民間路線バス定期補助事業を開始することをご報告するとともに、令和

８年度に近畿運輸局地域公共交通優良団体表彰を受けた福祉介護・共同送迎サービス「ゴイッショやす」の現状報告をさせていただく。さらに、本市ではこれらの事業の他にも公共交通の利用促進や利便性向上に向け、今後も様々な施策を積極的に展開して参る。
委員の皆様においては、忌憚のないご意見、ご提言をいただくようお願い申し上げる。本日は限られた時間ではあるが、有意義な会議となるよう祈念し、開会の挨拶とさせていただく。

３．議事

（１）野洲市コミュニティバス路線再編について

事務局：資料１により説明

会　長：質問、意見はあるか。

委　員：運行に時間を要する箇所で改善をいただいたと思うのは、冨波地域周辺であり、地域のなかを細かく巡回して目的地への到着に時間がかかるところを改善いただいたと感じる。時間短縮や経路の分かりやすさの改善等を対応いただいていると考える。

会　長：永原循環線のダイヤは、途中で時間調整のできる場所はあるか。

委　員：朝、夕方は、野洲駅北口周辺の道路が混雑し、時間調整する場所がなかなかないというのが現状である。定刻 20 分のところ、１～２分の遅延が平均である。この調整を久野部～野洲駅北口で実施している。運行しながらダイヤの改善等について、柔軟に対応したいと考えている。

会　長：Google マップの検索において、終点１つ前の停留所で降りるよう表示されることを懸念している。
もう１点、停留所の名称については、可能であれば「総合体育館前」に病院名を併記する等、ご検討いただければと思う。

委　員：ご指摘の方向で調整中である。

委　員：須原について、新ルートでは現行より 16 分早い出発となり、なおかつ野洲駅から離れていく方向での運行となるため、改善を検討してはいかがか。地域が了解していればよいが、苦情になるのではないか。

事務局：学区への説明前に、当時の学区長である須原の方へ説明させていただき、この巡回ルートについて一定のご理解をいただいている。

会　長：新ルートでの運行開始以降に調整いただければと思う。また、利用のないところを可視化し、利用のあるところにしっかりと資源を配分いただきたい。
希望が丘コースの最終便、三上コースの最終便は、終点の北桜付近でほぼ同時刻となる。利用実態を踏まえつつ、走行距離の短縮等、乗務員の負担軽減に繋げる余地があると考える。

委　員：現状、スピードを出しすぎているように思うが、時刻表どおりに運行できるのか。生活道路が 30km/h 規制となるが、ダイヤは維持できるのか。

事務局：事務局でも試走し、安全運転で時間をみたうえで時刻表を設定している。安全運転をするよう、運行委託業者にも依頼している。

委　員：本年４月より、近江タクシー㈱がおのりやすを運行している。安全面においては、４月からの運行にあたり、市にもダイヤ改善の要望をしており、安全を第一としたダイヤや乗務員の休息時間の確保等をいただいている。乗務員には安全第一で運行するよう伝えており、そのため遅延が生じる可能性もあるが、引き続き安全第一で運行するよう努めて参る。
様々なご意見を頂戴し、それを今後の運行に反映させていければと考えている。

会　長：再編実施後に遅延状況が分かってくると思われる。遅延が常態的に発生するのであればダイヤに反映する等、柔軟に対応いただければと思う。
他に質問、意見はあるか。本議事は、承認いただけるか。
全　員：異議なしの声。
会　長：本議事は承認とする。
なお、再編案について時刻等の軽微な変更が生じた場合は、事務局にて修正させていただくことについてもご承認いただけるか。
全　員：異議なしの声。

（２）野洲市路線バス通学定期券（高齢者用定期券小判手形）購入補助金の実施について（予定）

事務局：資料２により説明
会　長：質問、意見はあるか。
委　員：定期の払い戻しがあった場合は、どのように対応するのか。
事務局：定期を購入され、補助金を申請された後の払い戻しについては、申請用紙に、払い戻しが生じた場合は市に申し出るよう誓約欄を設ける。また、年度末等に、補助金交付者一覧に基づき、バス事業者様に払い戻し者有無の照会を行うことを予定している。
委　員：大阪のバス事業者における高齢者補助について、当初 65 歳以上を対象としていたが、近年は 65 歳でも企業等へ通勤しておられる方がいるため、70 歳以上へ年齢要件を変更された事例が見受けられる。世間の情勢が変化していることから、年齢要件について、世の中の実態を参考に検討いただいてはどうかと考える。
事務局：今後の事業の参考とさせていただく。
委　員：ポスター案について、QR コードはどこのページに遷移するのか。これまでバスを利用したことがない方にも分かるよう、路線図の一覧等にも遷移できるようにしてはどうか。
事務局：QR コードは検討段階であるが、申請ホームページ及び電子申請のページへの遷移を予定している。ご提案いただいた路線図等については、紙面のスペースの都合も踏まえながら、ホームページも含め、全体を通して分かりやすいものとなるよう検討していきたい。
会　長：QR コードが複数並ぶと誤解を招く可能性があるため、申請ホームページにバス事業者の路線のリンクを掲出するとよいかと思う。ぜひ、積極的に周知いただきたい。
本件に限らず、中学校の進路説明会で、電車やバス等の定期券の購入方法や種類等の案内があればよいと考える。定期券について知らない保護者の方もおられると聞いている。
他に質問、意見はあるか。
全　員：（特になし）
会　長：本件は報告事項であるため、次の議題に移る。

（３）「ゴイッショやす」買い物付き添い支援の現状報告について

担　当：資料３により説明
会　長：質問、意見はあるか。
委　員：補足にはなるが、近畿運輸局は近畿２府４県での事業を所管しており、近畿運輸局長表彰は、地域公共交通の確保・維持に積極的に取組み顕著な功績のあった団体を表彰する制度として、毎年数団体を表彰している。今年度は、２団体が近畿運輸局長表彰を受賞された。
今後、12 月に国土交通大臣表彰があることから、近畿運輸局として推薦を進めている。
会　長：当初はおのりやすとの競合を懸念したが、おのりやすを利用しにくい人へしっかりと届いている。地域公共交通、福祉いずれも支援が受けにくいフレイルへの対応が評価されてい

る。ぜひ、こうした軸がぶれないように継続していただきたい。
利用者数の増加が目的ではなく、要支援１～２にあたる他の方も参加いただけるような取組みにしていただけるとよい。定性的な成果の出し方になってしまうとは思うが、利用者の声を収集いただければ、さらなる利用者の拡大に繋がる。健康には、運動が効果的である。外出、買い物は自然な運動となる。参加者や周囲へ、そうしたポジティブな側面を周知いただきたい。加えて、サードプレイスとして居場所づくりになっていることが、フレイル予防や心の健康改善等に繋がっている。
ボランティアについては、しんどくない範囲で折り合いをつけ、継続性を確保いただければと思う。
また、今回の表彰について、アル・プラザにも共有いただければ、今後の協力が継続的に得やすくなると考える。

担　当：数値で表現できない内容があるが、ご助言を参考に今後の成果報告へ反映できればと思う。
アル・プラザをはじめ、関係者との連携もとりながら、事業を継続していきたい。

会　長：他に質問、意見はあるか。

全　員：（特になし）

会　長：本件は報告事項であるため、予定の議題はこれにて終了とする。

（4）その他

会　長：委員より他に共有事項等あるか。

委　員：情報共有だが、定期購入補助については、滋賀県下でも各市町より補助いただいている。守山市では、平成 29 年度より補助いただいており、学生向け定期については、導入前年度は年間 500 枚の売り上げであったところ、導入年度に 1,100 枚、10 年が経過した直近では 2,000 枚を超えた。高齢者向け定期については、導入前年度に 450 枚、導入年度に 800 枚、直近で 1,100 枚超である。それぞれ、３～４倍に増加しており、守山市内での増便にも繋がっている。野洲市では、現状として定期利用者が非常に少ない状況にあるため、同様に利用を増加させていければと思う。
続いて、永原循環線についてだが、土休日を中心に減便を実施した路線での復便事例は弊社としても少なかったところであるが、今回多数のご協力をいただき、また交通系 IC カードの導入もあり、体制を整えていただいたなかで今回の運行増強となった。土日については、体育館での大会にあたって中高生が徒歩でアクセスしている風景を見かける。体育館との連携強化を図り、平日と同程度の便数を確保しながら、運行を維持していきたいと考える。
これまで減便を行ってきたが、決して余力があるわけではない。今回は、様々なお力をいただき復便することができたが、この取組みを長期的に継続できるよう、ぜひともまずは地域住民がバスを利用する環境を整備、お声がけいただき、野洲エリアの路線バスが維持できる環境を作っていきたい。

４．閉会

事務局：慎重な審議に感謝する。本日の会議を終了する。

以上